

第4回自治基本条例策定検討町民会議グループ討議結果

第1グループ意見

町民会議：三津橋会長、古屋委員、今井委員、小倉委員、西村委員

職員 PT：武田主幹 事務局：木原主査

- ・女性の視点での意見は大事なので、審議会など各種委員会には女性を半数にすればいいのではないのか。
- ・女性だけの集まりがあってもいい。
- ・役場に入ってすぐのところ、案内係を置くといいのではないのか。
- ・総合窓口の存在を知らなかった。
- ・いまだに町民会館にハピネスの用事で来る人がいる。案内をしっかりとった方がいい。
- ・必要な時に必要な情報をいつでも見ることができる仕組みがあるといい。
- ・防災無線では場所や風向きにより、内容が聞こえない。
- ・電子掲示板が街中にあるといいのではないのか。
- ・町で行政情報の配信をしていることを知らなかった。
- ・広報と一緒に回っている町民の声を聴く紙（知恵の環）は、どうなったのか。
- ・広報で周知していることを知らないと言うのは、個人の責任の問題である。
- ・公区単位で意見の取りまとめをすることが大事。公区単位だと顔見知りなので言いたいことが言える。
- ・公区要望などで出される意見はどうやって決まっているのか。公区全体の意見ということになっているが、実際は公区住民の意見ではなく、公区役員である。みんなの意見をうまく拾い上げるようにしなければいけない。
- ・昔は小学校を核として人が集まって色々な行事を行っていたが、上小、一小がなくなってしまった。
- ・公区の実在の意義は何か。都会と一緒に不要論もある。町から補助金がかかるから存在しているだけではないのか。
- ・助け合いが本来の意義ではないのか。
- ・公区と接する機会がない。
- ・公区の総会なども出るメリットが感じられない。
- ・若い人達の行動を支援しろと言ってくれる人もいるが、公区役員の結束が強くてどうにもならない。
- ・何かを変えようとする時は時間がとてもかかる。自分の気持ちを伝えてもなかなか理解してもらえない。
- ・公区の実在も、ゴミの分別や市町村合併問題の時は多くの人が集まった。みんなが興味のある話題であれば集まる。
- ・空き缶をきれいに洗ってゴミに出せば高く引き取ってくれると聞いた。汚れ具合により引き取り額のランクがあり、きれいに洗うとランクが上がる。

- ・ そうであれば、ゴミ収集に出すのではなく、公区で集めて資金にすることはできないのか。
- ・ アルミ缶を食べる微生物がいて、その微生物は水を浄化する。海外では環境対策としてアルミ缶を川の中に大量に入れて、河川を浄化しているところもある。そういった使い方もある。
- ・ 公区が変われば町全体も変わる。若い人達が積極的に参加する方法を考えなければいけない。
- ・ 公区内の様々な活動部隊を公区で認定し、公区活動の一環として活動していける仕組みがあれば、積極的に住民も参加するようになるのではないか。
- ・ 公区の総会時に、同一テーマでそれぞれの公区で議論してみてもどうか。
- ・ 町から金が出ていると希薄になる原因である。
- ・ 他の公区ではどのような活動をしているか公開してほしい。そうすると活動の参考になる。
- ・ 公区の役員も班長と同じで輪番制にするべき。そうすると役員の苦勞も分かるし、公区活動に参加するようになる。
- ・ 公区の活動を通じて自ら何かをすることで、行政のことが分かってくる。

第4回自治基本条例策定検討町民会議グループ討議結果

第2グループ意見

町民会議：岡崎委員、我孫子委員、小日向委員、濱下委員、押田委員

職員PT：市田主査 事務局：高橋課長、田村主査

- ・カルチャーウィークエンドは自分たちが「やってるぞ！」という感じが良かった。会議で色々足りないイベントを埋めていくイベントでなかったことが良い結果につながった。普段やっていることの延長上の感じで、背伸びしなかったことが良かった。
- ・担当それぞれが自主企画でやったから良かったと思う。
- ・それぞれが役割を担っているから良い。
- ・難しい形の実行委員会でなかったのも良い。
- ・特に議場開放の評判が良かった。議会が身近に感じられたようだ。
- ・町長のイスをもっと立派なイスにという声もあった。
- ・行政・役場に対して、とても身近な感じになった。
- ・下川町の中で役割をそれぞれ認識しましょうというのが、これから作る条例なんじゃないか？子どもから年寄りまでそれぞれ役割がある。下川をもうちょっと良くしよう！という考え、何かあるはず。
- ・役割というのは形でなく、気持ちの中にもある。
- ・参加、参加できなくても少し感じているというのでも良い。違う形で応援している。参加できないけど、邪魔しない。思ったことをアドバイスするなど。
- ・お年寄りでも役割があると頑張れる。若い人だけでなく、年寄りも必要。生活の知恵が聞ける。貴重なもの。
- ・役割が発揮できることが大切。ただ、役割という言葉は堅い。小学生でも分かる言葉で表現する必要がある。役割という言葉何か良い言葉で言い表せたら。
- ・何事もプラス思考に。マイナスをプラス思考に。明るい形に変えていく取り組みが必要。
- ・札幌市は人が増えている。住んでいたが、増えることは必ずしも良いことではない。
- ・札幌市も自治基本条例の制定を目指しているが、住民の意見反映の最小単位が2万から3万人で、きちんと意見反映できるのか？
- ・小さいからこそ出来ること。小さい方が顔が見える。長野県は、合併市町村も自立市町村も両方応援している。市町村に県職員を派遣して地域の実情を把握している。そうすることで市町村が見える。
- ・ノーカーデーは良い。町民にもっとPRしても良い。町全体に広がれば、町の活性化につながる。宣伝PRが大切。恥ずかしいくらいのPRも必要。
- ・下川はパッと人が集まる。
- ・下川に来たい人はたくさんいるのでは？カルチャーでは普段みることの出来ないところも見ることが出来た。木材関係も見ると参考になる。来年は参加を期待している。

- ・色々発信できれば、興味を持って来てくれる。これが1ターン等につながる。
- ・実際、山の仕事、木工場の仕事もほとんど機械化されている。製材もオートメーション化されている。
- ・町の中のこと意外に知らないことが多い。
- ・議場にほとんどの人が入ったことがない。ナイター議会もやれば出来ると思う。やっているところもある。
- ・議会でも特別委員会で一般質問の方法議論されている。一問一答方式など。委員会も傍聴できるがほとんどいない。
- ・議会をやっていると表示があれば、分かりやすい。役場の外に表示があると良い。バスとかに表示するのも良い。看板にも。
- ・傍聴が入ると議論が白熱するのでは？
- ・議員と会うことは少ない。お通夜とパークゴルフ場くらい。どういう風に活動しているか見えない。
- ・議会の日程はどうやって知らせているのか？分からない。
- ・広報では間に合わない。防災無線で周知している。その他は新聞報道。
- ・簡単なチラシを作っては？掲示板を利用するもの良い。ウェルカム看板を利用したり。学校で配ったり。
- ・議会に町民が参加する町というのが良い。緊張感が違う。選挙のときだけでなく、監視する。次の選挙に活かされる。
- ・任せきるのが有権者の役目ではない。入れたからには4年間応援する。応援しなかった方もきちんと監視する。みんなの役割、町民の意識の中にある町。
- ・子ども議会等開催すれば良い。学校と連携すれば良い企画になる。
- ・行事がぶつかるのを調整すると良い。6年生は20人位なので一人一問質問すれば良い。答弁は、町長や校長、町の中の社長、誰でも疑問に答える。その他仕事の苦労話とかも。
- ・服装を工夫すれば面白い。仕事がイメージできる。
- ・先生方もきてほしい。勉強してほしい。先生方も是非地域に入ってきてほしい。
- ・先日、小学校で絵本の話をした。「こんなに良いとは思わなかった。」と言われた。先生の総合学習も必要。
- ・自分の子どもを責任を持って育てましょう！というくらいのものであれば良い。
- ・学校も開くべき。
- ・親の意識が低い。住んでいる親の意識が低い。田舎でも子どもは習い事など忙しい。
- ・親に関心があるかないでは全然違う。見せて感じさせるのは親の役目。いろいろな展開が期待できる。
- ・下川で色々やっているが、子どもたちは自然を知らない。親が教えなければならぬ。地域で教えなければならぬ。
- ・お年寄りの世代と一緒にやると良い。知恵袋を持っている。経験から学ぶことは多い。

- ・方言カルタを年寄りと一緒に作っているところもある。
- ・みんなそれぞれ出来ることがあって、下川に住んでいる人それぞれ必要な人間で財産である、というような前文があると良い。役職がついているからではなく、一人一人を大切にする、使命感をもって町で暮らす。
- ・誰もものが言えないということではなく、発言の機会を与える。やがては自分に返ってくる。